

CUBAPON ニュース

日本キューバ連帯委員会

<http://ifcc.1985.com/cubapon.htm> 郵便振込口座 00170-2-195919

NO36

2010 年
6 月

東京都新宿区山吹町 3 3 3
辻ビル 4 0 5 I F C C 気付
TEL: 03-3268-4387
FAX: 03-3268-6079
E-mail: jvccpf@mail.plala.or.jp

去年は、革命 50 周年記念、救援・CTC 招聘、そして CUBAPON15 周年と、多忙でしたが内容ある連帯活動をできました。ご協力に御礼申し上げます。

◆米作り支援の背景と意義

ここ数年、検討を続け懸案であった「キューバ米作り支援プロジェクト」に着手することになりました。昨年 11 月、菊田さんが対象地であり日系キューバ人が多く住む「青年の島」を調査。(詳細は頒布中の『2010 年度版 経済封鎖下を生きるカリブの社会主義Ⅱ』参照下さい)。一部のインフラ整備支援を行うことにより、自立で米作りが復活する可能性を見聞してきました。

ちなみに、キューバは米を主食としていますが、植民地時代のサトウキビ栽培プランテーション経済により米輸入国としてありました。自立をめざして自給率アップを図ってきたものの、1990 年代の『特別期』に極度の生産減に追い込まれ、今なおその復元にいたっていません。困窮の中での尊厳も、主食の米の充足なくしてありません。

現在、稲作耕地の復元のための「ポンプ支援」を準備中です。近日、プロジェクト詳細をご案内します。

◆第 5 回キューバ連帯アジア太平洋地域会議に代表派遣

さる 3 月 19 日～21 日、ラオスの首都ビエンチャンで表記会議が開催され、CUBAPON は村上久美子さんを派遣してきました。CUBAPON は、第 1 回会議以来、これまで 4 回に代表派遣してきました。キューバから遠いアジアでキューバ連帯の声が挙げられることの意義を認めて派遣してきています。(詳細報告は 2 ページ)

今回、開催日は早まったこともあり、経費工面(一部、村上さんの負担)ができず借入しました。ご協力をお願いします。

◆カンパの要請

昨年度の収支が大幅な赤字となりました。主な赤字相当分は、CTC 招聘に伴う借入(114,403 円)、第 5 回地域会議派遣経費(85,860 円)です。恐縮ですが金額を問いませんので、ご協力を頂けるとありがたいです。

◆キューバの集い

さる 6 月 6 日、坂戸市(埼玉県)で、CUBAPON も協賛し、表記集いが開催されました。ダンスあり歌(ドス・ソネス・デ・コラソネス)ありの坂戸市ならではの集いとなりました。この仲間たちは、7 月下旬からキューバ訪問計画。

◆第 14 回キューバ友好訪問団を計画

去年は、継続する革命 50 周年を記念し、総勢 20 人の参加で実施されました。中南米諸国の新たな歴史のページが開かれている時ですが、その砦とし輝きを 50 年間続けてきたキューバは、今、社会制度も含め再編を余儀なくされるほどに難題に覆われています。今こそ、連帯を掲げてきた CUBAPON としては、目を離さずキューバ及びキューバ人民の隣にいたいと希望しています。

ご参加を呼びかけます。(詳細は、同封チラシ)

◆ベネズエラ・ボリバル共和国国造り視察団(予)

今やキューバの盟友として、また、ボリバル代替案計画によって、新自由主義に苦しめられてきた各国の連帯の輪をつくる要として、新しい国づくりを進めてるベネズエラ・ボリバル共和国。

今年でベネズエラは独立 200 年を迎えています。また、議会制で社会主義憲法を 2009 年に制定した国です。幾多の困難を乗り越え、一つの範を示しつつあるベネズエラ・ボリバル共和国を見聞し、関係機関との意見交換を行います。ただ今、政府関係機関に受け入れ要請中。

履行予定日: 2010 年 10 月 3 日～10 月 11 日、主催: 同実行委員会、企画: IFCC 国際友好文化センター

※ご希望の方には詳細資料をお送りします。IFCC(03-3268-4387)までお問い合わせ下さい。

【お詫び】住所ラベル印字のミスがありました。会報 35 号(発行 2010 年 1 月)が届いていない方はお申し出ください。

09 年度収支(09 年度 5 月 2 日～10 年度 4 月 30 日) 支出

フィデル T シャツ製作	131775	
15 周年集い送料	30240	
15 周年会場費	90462	
15 周年集い謝金	90000	講師、演奏等
翻訳代	59630	米作り支援関係
キューバ連帯会議参加費	85860	ラオス会議
会報印刷代	39500	34 号、35 号
その他印刷代	62164	チラシ、資料等
送料	42880	会報、他
5・9 フェスティバル協賛	22500	キューバイン坂戸
借入金	14312	08 年度 IFCC より
貸付金	114403	救援・CTC 招聘赤字
計	783726	

収入

09 会費	204000	68 人
会費前受け	6000	1 人×2 年分
カンパ	31000	4 人
15 周年集い	63000	集い会費(21 人)
物販①	147700	フィデル T シャツ
物販②	61200	ラム酒等
物販③	21990	コーヒー代
借入金	248836	IFCC より
計	783726	

キューバと連帯する

「アジア・太平洋地域会議」、ラオスで開催

キューバとの連帯を目的とする友好組織は現在、158 カ国に 2,118 団体が組織されていると言われています。

キューバは、これら各国の友好組織との連帯をさらに深め広げることを目的に、ICAP（キューバ諸国人民友好協会）が中心となって全世界 4 つの地域で「キューバと連帯する地域会議」を開催しており、22 カ国、217 の友好組織を有するアジア・太平洋地域では、2 年前のスリランカ大会に続き、今回、ラオスの首都、ビエンチャンにおいて「第 5 回アジア・太平洋地域会議」が 3 月 19 日から 3 日間の日程で開催され、22 カ国から代表団 197 名が参加しました。

1 日目は、開会集会在開催され、それぞれの国の代表からキューバとの連帯活動状況が報告され、午後からは 2 つの分科会＝「ホセ・マルティ、チェ・ゲバラ、フィデル・カストロの思想のもとに展開されるキューバの抵抗と勝利」分科会と「地域・国内におけるメディア利用によるキューバとの連帯活動の強化」分科会＝に分かれて意見交換が行われました。

2 日目も引き続き分科会討論が行われ、集約がまとめられました。



アリシア副総裁とともに

ラオスに到着した途端、この大会がどれほどすごい大会なのか分かりました。ラオスの受け入れ体制はまさに「国家的規模」で取り組まれ、「なぜキューバのために、それほどまで」と不思議な思いがするほどでした。また、集会でも各国の参加者から「キューバとの熱い連帯の想い」が語られ、キューバって本当にすごい国だと改めて実感しました。

キューバとの連帯の熱さを実感
村上久美子



【日本代表団】

「自転車を送る会」から 2 名、「キューバを知る会・大阪」から 4 名、そして CUBAPON から 1 名（村上・後列右）、計 7 名の代表団でした。

真実と団結を武器に連帯強化を！



ICAP・ケニア総裁

3 日目は、集約集会在開催され、世界の災害地域で活躍するキューバ医師団の活動を紹介するビデオを鑑賞したのち、各分科会から集約が発表されました。

最後に、「真実と団結という私たちの最も大切な武器で連帯活動を今後とも広げ、強化し続けていく」との決意をこめた大会宣言が採択され、閉会となりました。

尚、次回は 2 年後、カンボジアでの開催が予定されています。

『イラク戦争』のように嘘で構築した理由で戦争させ行うことがまかり通る。それに追随し自衛隊を派遣した事実が一顧だにされない。

またしても韓国潜水艦沈没事件を「どこかの国から提供された曖昧模糊としたプロパガンダ」の尻馬に乗り、どこに道連れしようとしているのか。今、事故説、衝突説が主流になっているというのに。

フィデルの考察 「帝国とウソ」

私はイランと朝鮮についてどうしても書かなければと思い、二編の考察を書き、核兵器使用による戦争の危険が差し迫っていると説明しました。一つの危険の方は、米国が国連安保理で画策している決議に中国が拒否権を発動すれば克服されるだろうと言う意見も述べました。もう一方は管理不能なくつかの要因に左右されています。それは米国の後押しで現在の強力な核保有国としての地位を確立したイスラエル国家の狂信的行動のせいであり、超大国の管理をも一切受け付けられないからです。

米国が自らの利益と緊密な関係にあったイギリスの利益を守るために1953年6月にイスラム革命をつぶし、モハメド・レザ・パーレビを権力に据えた第1回目の介入時、イスラエルはまだ小国であり、パレスチナ領土の大部分、シリアの一部、それまでアラブ軍団 (Arab Legion) が防衛していたヨルダン近隣の一地域に支配力を持つには至っておらず、その影すらありませんでした。

しかし、今日、核弾頭つきロケットが数百基、米国の供与する最新の航空機に支援され、この地域のアラブ諸国・非アラブ諸国、イスラム国家・非イスラム国家を問わず、安全保障の脅威になっています。地域はイスラエルのロケットの大きな行動半径内にあり、ロケットは標的に数メートル以内に落下する能力を備えています。

5月30日の日曜日、「帝国と麻薬」というタイトルの考察を一編書きましたが、そのときは、数千年の歴史的父祖の地であった地域の狭い地区に追い込まれている150万パレスチナ住民への食糧、医薬品、日用品を積んだ船団に対する野蛮な攻撃がまだ起きる前でした。

パレスチナ人の圧倒的多数は、例えば食料、レクリ

エーションの権利、学ぶ権利、家族にどうしても要るものなど生活にふりかかる幾つもの必要性を満たすために時間を費やし、闘っています。地球上で起きていることについての情報を求めるため、立ち止まる時間はありません。パレスチナ人はどこで会おうとも高貴さをたたえた表情をしており、今、自ら苦しんでいる問題の解決策を他の人々も見つけようとしていると信頼していることがわかります。楽天的で、笑う余裕を持っています。だれにとっても脅威となっている現実を冷静に観察できる特権的な場にいる私たちにさえ、安心感を与えてくれます。

最新精密技術で設計され、広範囲ソナー・システムと水中音響センサーで支援された韓国哨戒艦天安号を北朝鮮が韓国側の水域で沈没させたという非常におかしなでっち上げ事件で、40人もの韓国人海兵を死亡させ、数十人を負傷させた恐ろしい行為は北朝鮮のせいだと非難されています。

この問題を見抜くことは私には容易なことではありませんでした。たとえ、どんなに権威ある政府であれ、ある政府が命令系統を使って旗艦に魚雷を撃つ命令を出すことがありえるか、どうしても説明できませんでした。まして、その命令を出したのがキム・ジョンイルであるという説明を一秒たりとも信じることはできませんでした。

結論に達するための判断材料を持っていませんでしたが、中国が国連安保理の北朝鮮制裁決議に拒否権を発動するだろうと確信していました。またもう一方については、疑いなく、米国は制御不能なイスラエル政府の側について核兵器を使用することは避けられないだろうと見ていました。

6月1日、夜になって実際、何が起こったのか、ベールがはがされ始めました。

午後10時30分、私はベネズエラTVの人気番組「ドシエル (=書類)」をプロデュースするジャーナリスト、ウォルター・マルティネス (Walter Martinez) の鋭い分析の内容に聞き入りました。彼の結論は、日本の新指導者が国民の不安を繰り返し訴えて、沖縄の米軍基地が占領している土地の返還を要求していた問題を解決する目的で、米国が南北朝鮮の双方にそれぞれ自ら主張するよう、仕組んだというものでした。つまり、日本の現政権党は沖縄から (普天間) 基地の移設を実現すると約束して選

挙に大勝利しました。日本は発展した豊かな国ですが、米軍基地は日本の心臓に65年もの間、突き刺さった短剣です。

グローバル・リサーチのサイトからはウェイン・マドセン (Wayne Madsen) の記事によって驚くべき事件の真相の詳細がわかります。彼は研究ジャーナリストで、ワシントンDCで働いており、Wayne Madsen Report というウェブ・サイトで複数の情報機関から得た情報を流しました。

情報機関は「韓国対潜水艦戦用天安号に対する攻撃は北朝鮮から来たように見せかけるための友軍間の攻撃だと疑っている」とマドセン氏は断定しました。

「朝鮮半島の緊張を高める主要目的の一つが、日本の鳩山由紀夫首相に圧力をかけ、駐留米海兵隊基地の沖縄からの移設について方向転換させることであった。鳩山は、天安号沈没事件の緊張が沖縄に米海兵隊駐留を許す自らの決定の大きな部分を占めたと認めている。社民党指導者福島瑞穂は沖縄に対する態度が転換されれば連立を離脱すると迫ってきており、鳩山の決定は中道左派連立政権を分裂させた。ワシントンはこれを歓迎した。」

「天安号はベンニョン島付近で沈没した。島は韓国沿岸から相当離れた西端にあるが、北朝鮮側の海岸線とは反対側であった。島は重軍備され、北朝鮮の沿岸防衛の砲弾の届く距離であり、せまい海峡で隔てられているに過ぎない。」

「天安号は対潜水艦戦の艦艇であり、最新のソナーを備え、高度な水中聴音ソナー・システム、水中音響センサーをめぐらせた水域を航行していた。この水域でのソナーや魚雷・潜水艦や小型潜水艦についての韓国側の音声的証拠はない。沈没が起きたとき、海峡を航行する船舶はほとんどなく、海は静かであった。」

「しかし、ベンニョン島には米韓合同の軍事情報基地がおかれ、米軍SEALS (特殊部隊) はこの基地から作戦に出ている。さらに天安号の沈没時には、フォール・イーグル米韓合同演習の一環で米軍戦艦4隻が参加していた。疑われた魚雷の金属的・化学的痕跡の調査によるとドイツ製であることが判明した。」

「米軍SEALSが友軍同士の攻撃の可能性を否定するために欧州の魚雷の見本を持っているという疑いは複数存在している。ドイツは北朝鮮に魚雷を販売していないが、潜水艦と水中兵器の開発につ

いてイスラエルと緊密な協力計画を持っている。」

「韓国哨戒艦の沈没時、米海軍船舶サルバー号がフォール・イーグル演習の参加船舶として現場、ベンニョン島に非常に近いところにいたこともまた疑問を抱かせる。」

「サルバー号は軍の海難救助を行う民間船舶であるが、2006年にタイ湾でタイ海軍の機雷敷設活動に参加したことがあり、爆発時刻近くには12人の深海ダイバーとともに付近の水域にいた。」

「中国政府は、ピョンヤンから列車で緊急訪中した後、北朝鮮のキム・ジョンイルは関与していないという主張に満足し、天安号の沈没に関して米軍の役割、とりわけ、サルバー号の果たした役割に疑問をもっている。疑問点は次の通りである。」

「1ーサルバー号は海底の機雷敷設作戦に従事していた。つまり、海底に水平に発射する対潜水艦機雷を敷設していた。

2ーサルバー号は海底で通常の検査とメンテナンスを行っていた。検査プログラムの一環としてエレクトロニクス的アクティブ・モード (ヘアー・トリガー・リリース) の状態にした。

3ーSEALSのダイバーは、韓国・日本・中国の世論に影響を与える秘密計画の一環で天安号に磁気機雷を取り付けた。」

「朝鮮半島の緊張はヒラリー・クリントン国務長官の訪中、訪韓のその他の課題を都合よく、見えなくさせた。」

米国はこうして驚くほど簡単な方法で重要問題の解決を図り、鳩山由紀夫民主党政府の連立政権を崩壊させました。しかし、コストは相当なものでした。

- 1ー同盟国韓国をひどく怒らせた
- 2ー自らの敵であるキム・ジョンイルの行動の巧みさと敏速さを際立たせた
- 3ー中国の実力の権威を上昇させた。全中国を統一する権威ある主席が個人的に動き、中国の主要指導者を日本に送り、昭仁天皇、首相およびその他の重要人物と会談させた。

政治指導者と国際世論は、米国の帝国主義的政策を特徴づける鉄面皮さと何事にも全く後ろめたさをもたない証拠を持っています。

フィデル・カストロ・ルス

2010年6月3日 午前11時16分
(富山栄子訳)